

登録コード	TT110206	開講年度	2026				
授業科目	学外特別実習（知機）					担当教員	柿 和彦
英文授業名	Internship					副担当	
単位数	1	講義期間	通年	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	知能機械コース1年生
講義室				授業形態	実習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 Tカリ						
	【26T～】共通教育による幅広い教養と、工学の専門分野における基礎学力が身についている。				⇔	機械工学に関する基礎知識を応用し、与えられた課題を与えられた制約内で解決することができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	企業や公的機関の研究所や技術センター等で実施している機械システム工学に関連する内容のインターンシップや学外実習を通じて、実務を学び、視野を広げるとともに、本学科の専門科目の理解と応用力を高めることを目標とする。 学内外で紹介・公募されているインターンシップ、およびそれに相当する学外実習で、本科目の趣旨に合致し、質と量ともに科目単位数に見合う内容の実習に対して、本科目の単位として認定する。 希望者は事前に学務委員に申し出て、原則として自身で当該実習に応募し、企業等で実務経験が生かされた実習を受けることができる。						
(5)授業計画	具体的な実習内容と計画は実施機関・企業に任せられるが、実施内容が本科目の認定に相当するかどうかにについては、予め学務委員に確認せねばならない。学外特別実習の実施時間は、実験・実習を基準に、45時間（=3時間×15週）を目安に1単位とする。						
(6)成績評価の方法	単位認定までの手続きは、以下の通りである。 1. インターンシップ等の研修実施前に、機械システム工学科学務委員に単位認定を申請する旨を連絡するとともに、実施要綱等のコピーを提出する。 2. 活動した団体の責任者の署名等が入った実施報告書を、同学務委員に提出する。報告書の体裁は自由であるが、報告書には、タイトル、提出日、学籍番号、氏名、実施日・時間・研修内容・感想（学び）・その他を記入すること。学務委員の氏名その他の詳細については、履修案内に掲載されているので参照すること。						
(7)成績評価の基準	可：当該活動の成果が受け入れ機関もしくは学科が認める基準に達している。 良：上記を満たした上で、本人の積極的な取り組みが認められる。 優：上記2点を満たした上で、本人の独創的な取り組みが認められる。 秀：上記3点を満たした上で、当該活動の成果が特に認められて、受け入れ機関、信州大学、その他の機関から表彰された場合。						
(8)事前事後学習の内容	受け入れ機関の定めに従うこと。						
(9)履修上の注意	学外特別実習の単位を希望する者は、インターンシップ等の学外実習を開始する前に、予め学科の学務委員に申し出て、当該実習が本科目の単位として認められることを確認し、了解を得ること。事前に申し出ていない場合には、本科目の単位として認められない場合があるので注意すること。						
(10)質問,相談への対応	メール等にて随時受け付ける。教員室を訪ねる場合は、事前にアポイントメントをとること。						
(11)その他	本授業科目は、選択科目として卒業要件の単位数に加えることができる。						
【教科書】	指定しない						
【参考書】	指定しない						